

オリンピック・パラリンピックの 施設レガシー

早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与

間野義之

オリンピックにおける「レガシー」とは

「オリンピック競技大会のよい遺産(レガシー)を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進すること」

「オリンピック憲章」 第1章 オリンピック・ムーブメントとその活動

1-2. IOCの使命と役割 より

- 1956年メルボルン大会招致の際に初めて言葉として使用
- 契機は、2002年ソルトレイクオリンピック時のIOC委員買収
- 近代オリンピックから約100年というタイミング
- 2002年11月 IOC総会にて「オリンピック憲章」に追加
- 2012年大会から招致段階にも考慮すべき重要なテーマに

「レガシー」の意味・由来

- LEGACY⇒直訳：遺産、先人の遺物
- 語源：ラテン語のLEGATUS(ローマ教皇の特使)
キリスト教布教の際にローマの技術や文化、知識を伝授
⇒布教活動を終えて特使が去ってもキリスト教と共に
文化的な生活が残る
- 多様な概念を有する言葉(有形・無形等)

シドニーの施設レガシー例

開催都市の市民生活の質にもたらされたレガシー

開催年	開催都市	重要だと考えるレガシー(上位3項目)
1996	アトランタ	<ul style="list-style-type: none">・町の中心部の美化が進んだこと・通信環境が良くなったこと・オリンピック100年記念公園ができたこと
2000	シドニー	<ul style="list-style-type: none">・文化を世界に発信できたこと・オリンピックスタジアムができたこと・障害者を広く受け入れる環境ができたこと
2004	アテネ	<ul style="list-style-type: none">・新空港ができたこと・地下鉄が延伸したこと・道路網が整備されたこと
2008	北京	<ul style="list-style-type: none">・町の環境が良くなったこと・4つの新しい地下鉄が開通したこと・道路の安全性が向上したこと

シドニーオリンピック・パラリンピックの 施設レガシー

シドニーオリンピックパーク：オリンピックパラリンピックの後、
2001年にシドニーオリンピック公園庁を設立、あと利用の整備。

シドニーオリンピックパーク → 改修・一部新築に
14億オーストラリアドル

Allphones Arena (Sydney SuperDome)

- 収容人数21000人
- 計画時からあと利用を想定した多目的アリーナ
- オーストラリア国内最大の屋内競技・イベント施設
- 建設工事費：2億オーストラリアドル
- オリンピック・パラリンピック時には体操競技、トランポリン、バスケットボール決勝、車いすバスケットボール会場
- 大会終了後、メジャースポーツやビジネス、エンターテインメントのイベント会場として使用。
- アイスホッケー、プロレスリング、会議場、コンサート会場
- 来場者数が世界ベスト10に入るアリーナ
(～2013年)

ロンドンの施設レガシー例

ロンドンオリンピック・パラリンピックの 施設レガシー

1. イギリスを世界トップのスポーツ国家にする

2. 東ロンドンの再開発

3. 若い世代の啓発 (inspire)

4. 持続可能なオリンピックパークの設計

5. イギリスが創造的、協調的であり、
またビジネスチャンスに満ちていると世界にアピール

オリ・パラを活用し長年の政策課題を解決

東ロンドン地区の都市再生：クイーンエリザベス・オリンピックパーク

オリパラを「活用」

土壌浄化と公園の建設を進めLower Lee Valleyを変革

- 246ヘクタール：総面積
- 85億ポンド（≒1.5兆円）：開発予算
- 2年：土地の調整
- 4年：インフラ・会場の建設
- 220：解体した建物
- 2百万トン：土壌浄化
- 30：新しく建設した橋

Lee Valley White Water Centre

- オリンピック前に一般開放された唯一の会場
 - カヌースラロームのナショナルトレセンとして利用
 - 救命講習、ライン下り、2人乗りボート、ハイドロスピーディング、カヤック、ラフティング、カヌー・スラローム、トライアスロン
 - 2014 World Cup、2015 World Championships
 - 人気プログラム：企業のチームビルディング講習
 - 設計段階から現運営者であるLee Valley Regional Park Authorityが積極的に関与
-

Lee Valley VeloPark

- 複数の自転車競技施設を備える会場
- 人気プログラム：企業のチームビルディング講習
- トラックレース用施設 (Velodrome)、BMXレース用施設 (BMX Track)、ロードレースコース、マウンテンバイクコース
- 2016 UCI World Championships
- 設計段階から現運営者であるLee Valley Regional Park Authorityが積極的に関与

Copper Box Arena

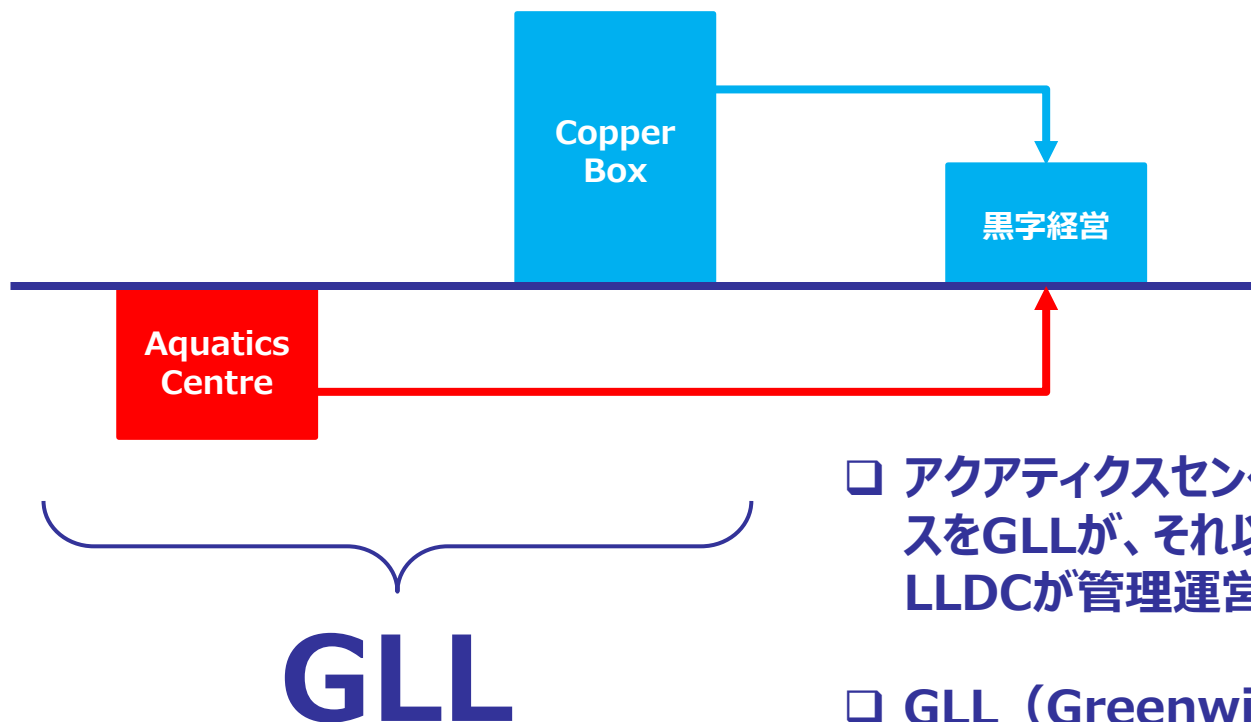
- レガシー利用1号施設（待望の中小規模屋内スポーツ施設）
 - 7500席（固定：6000、可動：1500）
 - スポーツイベント、プロスポーツチームの練習場、コンサート会場、リハーサル会場、コミュニティ・スポーツプログラム等
 - コンコースはフィットネスジムとして活用
 - 天井にはトップライトを設け照明を節約
 - 雨水再利用システム
-

Aquatics Centre

- イギリス初の2つの50mプール
- 設計はザハ・ハディド
- 17500席→3500席（固定：2500、可動：1000）
- 全プール可動床採用、2つの可動壁によりコースの長さ調整可能
- 人気プログラム：Aqua Splash、ダイビングクラブ
- メディア関係諸室をフィットネスジムとして活用

施設間の収益移転による総体的黒字経営の実現

Cross-subsidyシステム



□ アクアティクスセンターとコッパーボックスをGLLが、それ以外のパーク全体をLLDCが管理運営

□ GLL (Greenwich Leisure limited) 1993～

□ LLDC (London Legacy Development Corporation)
LDAから分社化：2011～

オリンピックパークを中心とした生活圏の形成

選手村の再開発：「East Village」 Athlete Villageの再開発と新設 する5つのコミュニティ

- East Village : 2818戸（アフォーダブル・ハウジング : 1,379戸（約35%））
- 今後20年間で新たに5つのコミュニティ（約11,000戸を予定） ※コミュニティ名は地域住民によるコンペ
- 学校（3）、保育園（9）、コミュニティ・スペース（7）、医療施設（3）を建設予定

デジタル産業の集積地「Here East」

メイン・プレスセンター、国際放送センターの再開発

- 完全稼働：2018年（予定）
- 経済効果：£450m（GDP）、£340m（自治体）
- インキュベーションセンターの設置、大学誘致（ラフバラ大学）
- 新たな雇用：7,500人（施設内：5,300人、周辺地域：2,200人）
- 2018年運行開始のCrossrailとの相乗効果

ロンドン市内の既存施設の活用： ノースグリニッジ岬ウォーターサイドエリア

The O2 Arena

- ノースグリニッジ岬：オリンピックと同様、東ロンドン再開発地区
 - 体操競技、バスケットボール決勝、車いすバスケットボール会場
 - 世界最大の複合屋内施設
 - オリンピック後も継続して周辺開発をすすめる
 - 万博跡地の活用：The O2
 - 年間200日可動：屋内テニス、NBA、NHL、ホースポロコンサート、コメディ、イベント会場としての活用
 - ホテル、大学、アウトレットモール誘致
 - 交通インフラが課題
-

Excel London

- ロンドンで最大の国際展示場
- 多種目の会場：ボクシング、フェンシング、卓球、柔道、テコンドー、ウェイトリフティング、車いすフェンシング、ボッチャ、ブラインド柔道

ロンドン市による スポーツイベント開催へのコミットメント

戦略的・継続的なスポーツイベント誘致によるオリパラレガシーの創出

2014

- Tour De France Stage 3
- FINA Diving World Series
- NEC Wheelchair Tennis Masters
- Pruhealth World Triathlon London
- Clipper Race

2015

- IRB Rugby World Cup
- Eurohockey Nations Championships
- ICF Canoe Slalom World Championships
- Formula E

2016

- UCI Track Cycling World Championships
- LEN European Championships
- IHF Women's Championships Trophy

2017

- IAAF World Athletics Championships
- IPC Athletics World Championships
- IHF Men's World League Round 3

2015

- IHF Women's Hockey World Cup

2016

- ICC Cricket World Cup

2020年東京五輪の施設レガシー

三度のオリンピックが日本にもたらしたレガシー

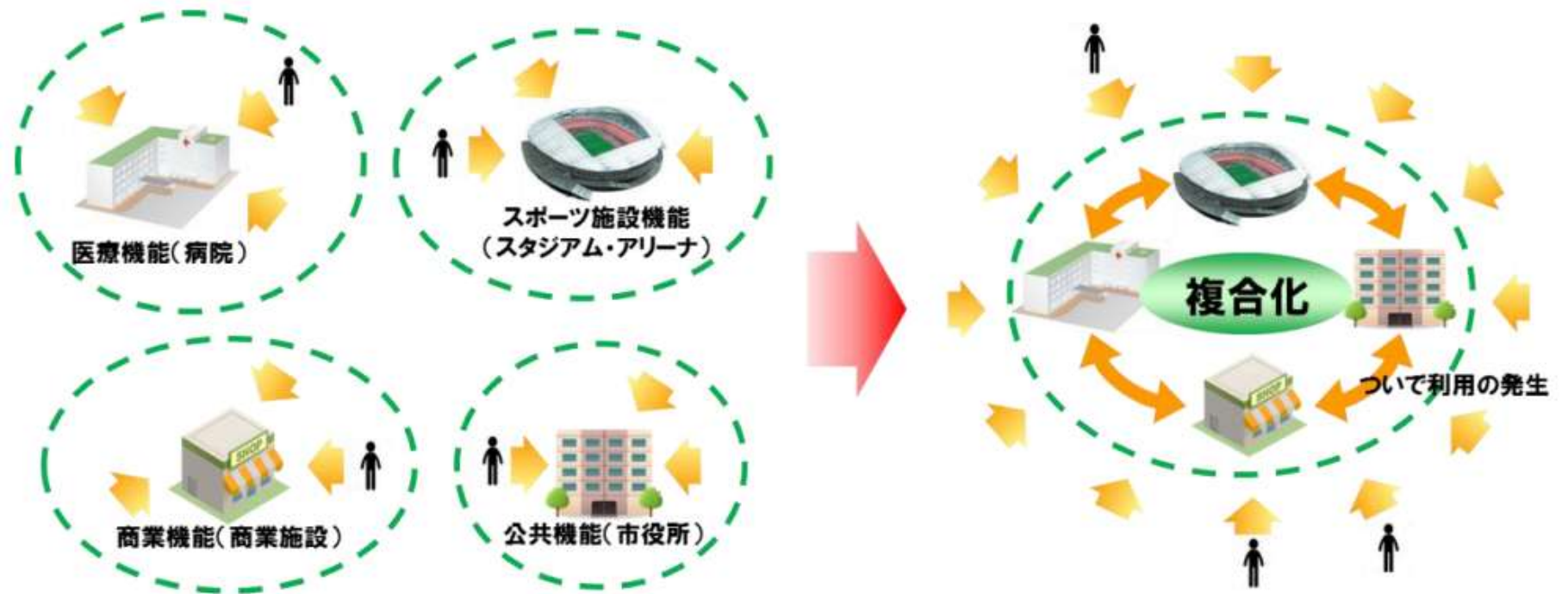
	有形レガシー	無形レガシー
東京五輪 (1964年)	<ul style="list-style-type: none">・東海道新幹線、首都高・国立競技場、代々木体育館	<ul style="list-style-type: none">・オリンピック国民運動・衛星放送技術、公式時計等・日本古美術展(40万人動員)・スポーツ振興法、体育の日
札幌五輪 (1972年)	<ul style="list-style-type: none">・地下鉄、地下街、道央自動車道・スタジアム、ジャンプ競技場	<ul style="list-style-type: none">・スキー、スケートの浸透・オリンピック学習・ミュンヘンとの姉妹都市
長野五輪 (1998年)	<ul style="list-style-type: none">・長野新幹線、上信越自動車道・南長野運動公園・環境との共生(バイアスロン会場)	<ul style="list-style-type: none">・一校一國運動・ボランティア(約3.3万人)・スポーツコミュニティ軽井沢クラブ
東京五輪 (2020年)	?	?

2020年東京大会レガシー (立候補ファイル)

分野	レガシー
ハード	<ul style="list-style-type: none">➤ 国立競技場を始めとした11の恒久会場整備➤ 国立代々木競技場を始めとした15の主要施設の改修➤ 東京ベイエリアに設置される21会場(スポーツ・イベント用施設)➤ 国際的レガシー:東京にイベント・スポーツ技術・科学機関を創設
社会・環境	<ul style="list-style-type: none">➤ ISO20121認証に沿った基準順守➤ 433ha緑地創出、街路樹100万本「グリーン・ロード・ネットワーク」➤ 東京臨海部における新しいコミュニティスペース整備
スポーツ	<ul style="list-style-type: none">➤ 国際スポーツ振興プログラム作成➤ 競技会場によるスポーツを楽しむ機会の提供➤ 運動による恩恵の社会への浸透、若者の健康的ライフスタイル➤ アスリートへの医療的・科学的支援の拡大➤ 地域レベルでのスポーツクラブ活動の推進・拡大
オリンピック振興	<ul style="list-style-type: none">➤ 若者向けスポーツ教育プログラムによる競技振興・発展➤ 7つの競技(アーチェリー等)に関する新たな才能の発掘と支援
選手村	<ul style="list-style-type: none">➤ 晴海地区における住宅複合の国際交流拠点、複合的な街づくり➤ 晴海ふ頭先端における公園設置➤ 新たなアクセス手段となる交通システム

有形のレガシーとしてのスマート・ベニュー®

コンパクトシティの中核施設として、周辺エリアマネジメントを含む、複合的な機能を組み合わせた サステナブルな交流施設



- 機能が分散しており個別の利用
- 1施設当たりの集客は限られている

- 機能集約による相互利用(ついで利用含む)の発生
- 様々な利用目的による集客拡大
- 効率的な施設整備

ご清聴ありがとうございました。

y-mano@waseda.jp